

第 16 号

発行・鴻文會

山口大学 文理学部 文学科
人文学部 同窓会

山口大学人文学部内
電話 (0839) 33-5200

(連絡事務所)

山口市平井773-2
沖田ビル202

電話・FAX
(0839) 28-4527

郵便振替口座
01500-4-15902

来年度「第五回総会」を前にして

会長 大塚 博久

(中国哲学・文理第四回卒)

本年度から山口大学では学部毎に一般教育と専門教育とを四年一貫体制のもとで教育することになり、昭和四十一年度（一九六六）以来三十年近く一般教育を担当してきた教養部が廃止され、代って作られた「共通教育センター」のもとに全学の教官が出講する体制に移行しました。これに伴って人文学部にも数名の教官が教養部より転属されて陣容が一段と強化されることになりました。従って、鴻文會も一年生に直接触れる機会が多くなることを予想し、初めての試みとして、四月には連絡事務所ビルに理学部同窓会とともに「祝入学」の垂れ幕を揚げて歓迎の意を表しました。

六月二十二日（土）には平成八年度の役員会を開催致しました。事業は別掲諸報告の通り、一応順調に推移しております。来年は、第五回総会（八月二十三日（予定））の開催と会員名簿発行の年に当りますので、そろそろその準備に取り組まなければなりません。近く会員各位の動静・異動などにつき調査票の記入をお願いするかと存じますが、御協力方よろしくお願い申し上げます。また総会の企画、内容などについても御意見、御要望を是非承りたいと存じます。

昭和二十八年卒業の文理・文学科第一回生より本年の人文学部第十五回生まで通算四十三期を数え、本会も次第に層の厚みを増し、全国各地、各界で活躍の会員の輩出の有様を見聞しますことは誠に喜ばしいことであります。山口県内においても、先般、県教育長から山口県副知事に就任された小河啓祐氏

(国文八回)、この程防府市長として三選を果された吉井淳一氏(国文五回)の御活躍が期待されます。こうした趨勢のもとで、広島、山口などを始め各地同窓会支部結成の動きに一層拍車がかかりますことを念願しております。

なお、慧眼のみなさまにはお気付きのことと存じますが、今号から会報の題字が変わりました。元山口大学長、元文学部部長、田中晃先生が私どもの懇願に親しく筆を執って下さったものです。先生は豊饒として今年卒寿を迎えられましたが、昨年末には大著『道元禅の実相―「正法眼蔵」釈義―』(晃洋書房刊)を上梓されました。先生の御長寿を祈念するとともに心から感謝申しあげ、「題字」を本会の発展のシンボルとして長く大切にしていきたいと存じます。会員のみなさま、来年の総会でお会いできますことを楽しみにしております。御健勝にて御活躍されますことと祈ってやみません。

理学部同窓会からのメッセージ

学内常任幹事 三浦保範

鴻文会の会員の皆様お元気ですか。皆メモリーとしています。昨年(平成七年)さんとは昭和五十六年十月に開催された(八月)からは、両学部同窓会と合同同窓会との合同総会と懇親会以来ご無沙窓会連絡事務所を大学正門近くにオープンしています。私個人としては文学部、理学部、工学部、経済学部の各学部に所属する方々から、懇話会、同窓会、校友会、卒業生会、OB会などに務めた頃の教官会議で鴻文会の先生が、任幹事の方とはまた打ち解けた相談が、活発に議論した雰囲気はまだに大切な、きるようになり喜んでいきます。新しい臨



鴻文会事務所

時事務員の小野さんには、両学部の事務担当をして頂いています。

第四回理学部同窓会の総会・記念講演会を今年八月に鴻文会・鴻南会の代表者ご臨席のもとで開催し、無事終了いたしました。次回総会は平成十三年(二〇〇一年)で、鴻文会総会と合同で開催したいと存じますので、合同開催の記念行事について今後相談していきたいと存じます。それまでに、連絡事務所での名簿コンピュータ管理の実施や、大学創立五十周年(一九九九年)での両同窓会の参加



事務所が置かれている沖田ビル付近

などについて対処する必要があります。廣中平祐学長のご希望では、劇的な質的改革によりこれから超一流(地方一流)大学をめざしたいとのこと。そのため本大学として、理学部と工学部との今後の関係は不透明ですが、これまでの文学部との歴史は変わることは絶対ありません。理工学分野の質的レベルアップには、どうしても語学・歴史的素養が不可欠ですので、今後とも人文学部と理学部の学生・教官との密接な関係を期待して、私からのメッセージしたいと思います。

私の中の山大・山口

バーチャル&リアリティ

神崎 茂 樹

(東洋史学・人文第四回卒)

ていくという格闘のサイクルが私自信を成長させてくれており、その基本を作ってくれた「山口」という場所、そこにいた人達には非常に感謝している。

しかし、この身が東京にいても、広島にいても、「山口」という言葉を各種メディアから見聞きする度に学生時代の思い出が頭を過る。この思いは私だけでは

卒業後約十二年を迎えようとしている。未だ独身の私にとって、学生時代と変化したことといえば、ペンとノートがパソコンに変わり、大漢和辞典が会社のマニュアルに変わり、スリムなボディがために変わり、ポロシャツがネクタイに変わり、呼び出し電話がFAX・PHS・パソコン通信に変わったことであろうか。これらは全て真実即リアリティの世界である。

この度寄稿するにあたり、学生時代の思い出(リアリティ)を振り返ってみると、格闘の歴史であった。学生時代の格闘とは何であったか。以下列挙してみると、①人文棟五階研究室での畑地先生との格闘(ほとんどひとり相撲であったが)②グラウンドでのわがまま教官チームとのソフトボールでの格闘③湯田温泉での先輩・後輩とのコンパでの格闘④七夕祭・ホテル祭りでの「恋人作りのラストチャンス」と挑んだ女性との格闘……色々な格闘のなかから、ものの考え方、人と接するにあたっての考えなど多くを学び、それらが就職当初の私の行動指針となり、就職後の上司・部下・お客さまとの格闘を通じバージョンアップさせ

ていくという格闘のサイクルが私自信を成長させてくれており、その基本を作ってくれた「山口」という場所、そこにいた人達には非常に感謝している。

しかし、この身が東京にいても、広島にいても、「山口」という言葉を各種メディアから見聞きする度に学生時代の思い出が頭を過る。この思いは私だけでは

卒業後約十二年を迎えようとしている。未だ独身の私にとって、学生時代と変化したことといえば、ペンとノートがパソコンに変わり、大漢和辞典が会社のマニュアルに変わり、スリムなボディがために変わり、ポロシャツがネクタイに変わり、呼び出し電話がFAX・PHS・パソコン通信に変わったことであろうか。これらは全て真実即リアリティの世界である。

この度寄稿するにあたり、学生時代の思い出(リアリティ)を振り返ってみると、格闘の歴史であった。学生時代の格闘とは何であったか。以下列挙してみると、①人文棟五階研究室での畑地先生との格闘(ほとんどひとり相撲であったが)②グラウンドでのわがまま教官チームとのソフトボールでの格闘③湯田温泉での先輩・後輩とのコンパでの格闘④七夕祭・ホテル祭りでの「恋人作りのラストチャンス」と挑んだ女性との格闘……色々な格闘のなかから、ものの考え方、人と接するにあたっての考えなど多くを学び、それらが就職当初の私の行動指針となり、就職後の上司・部下・お客さまとの格闘を通じバージョンアップさせ

ていくという格闘のサイクルが私自信を成長させてくれており、その基本を作ってくれた「山口」という場所、そこにいた人達には非常に感謝している。

しかし、この身が東京にいても、広島にいても、「山口」という言葉を各種メディアから見聞きする度に学生時代の思い出が頭を過る。この思いは私だけでは

卒業後約十二年を迎えようとしている。未だ独身の私にとって、学生時代と変化したことといえば、ペンとノートがパソコンに変わり、大漢和辞典が会社のマニュアルに変わり、スリムなボディがために変わり、ポロシャツがネクタイに変わり、呼び出し電話がFAX・PHS・パソコン通信に変わったことであろうか。これらは全て真実即リアリティの世界である。

この度寄稿するにあたり、学生時代の思い出(リアリティ)を振り返ってみると、格闘の歴史であった。学生時代の格闘とは何であったか。以下列挙してみると、①人文棟五階研究室での畑地先生との格闘(ほとんどひとり相撲であったが)②グラウンドでのわがまま教官チームとのソフトボールでの格闘③湯田温泉での先輩・後輩とのコンパでの格闘④七夕祭・ホテル祭りでの「恋人作りのラストチャンス」と挑んだ女性との格闘……色々な格闘のなかから、ものの考え方、人と接するにあたっての考えなど多くを学び、それらが就職当初の私の行動指針となり、就職後の上司・部下・お客さまとの格闘を通じバージョンアップさせ

ていくという格闘のサイクルが私自信を成長させてくれており、その基本を作ってくれた「山口」という場所、そこにいた人達には非常に感謝している。

祭・姫山祭の模様や大学周辺の模様を掲載してみたいかだろうか。手紙を書くとなると片苦しいと感じるが、電子メールだと気軽に出来るものであるし、電話やFAXと違い、リアルタイムに動画情報ややり取りも可能となり、鴻文会の活動・交流がより活発になり、微力ながら学生諸君への力添えもできるのではないだろうか。

最後に、諸先輩方が立派な寄稿をされているなか、私のような若輩者が好き勝手を書かせていただきましたことをお許しただくとともに、今後鴻文会及び山口大学が益々ご発展されることを祈念します。

山口の大家さん

井ノ口 哲也

(中国哲学・人文第十三回卒)

誰もが一度は憧れることの一つに、一人暮らしがある。平成二年四月六日、この日から私の一人暮らしが始まった。厳密に言うと、一年目は完全な一人暮らしと言えなかった。吉田寮に入寮したからである。寮では、同じ人文学部の人と六畳一間で暮らし、周りには同年代の仲間

がたたくさんいた。どんな事も皆で助け合って生活していたのであり、ここでの一年間は、その後の完全な一人暮らしの術を得るのに適当な期間であったように思える。寮の生活も悪くはなかったが、やはり

完全に一人で暮らしたいと強く思うようになり、ある先輩の紹介で、家賃の格安な九畳の部屋を見つけ、二年目から卒業するまで住むことになった。寮では隔日だった入浴も毎日になり、下宿棟も常に清潔に保たれていた。三年間を快適に過ごせたその恩恵の裏には、大家さんの存在があった。

大家さんは、季節を問わず、いつも朝五時に起きて下宿棟の掃除をされていた。学生が起きぬうちに何もかも片付けてしまおうという心遣いである。また、稼業が農業であるため、時折、新鮮な果物を学生に配っておられた。私もよく頂戴した。更に私の場合、大家さんのお孫さんの家庭教師を任せられ、生活費の一部もそこから工面できた。あらゆる面で配慮の細やかな大家さんであるが、私にとって忘れられないのが、四年目の春の事である。

この春、私の弟が山工工学部に入学した。適当な下宿が見つからず右往左往していた弟を、「広いので一緒に住めば」と言って拾って下さったのも、大家さんだった。再び完全な一人暮らしではなくなったが、私も弟にその後の彼の一人暮らしの術を少しは伝えられたかと思う。私達兄弟は、大家さんに足を向けては寝られない。

一人暮らしと軽くは言うが、決して一人で生きている訳ではない。私の一人暮らしの起点を支えて下さった山口の大家さんに、今も感謝の気持ちを忘れてはいない。(東京大学大学院学生)

思い出すままに

水落 一幸
(中国文学科・文理第十七回卒)

職場の親睦旅行で、津和野からの帰途、雪舟庭にたち寄った十月二十二日が、私の最近の山口訪問になります。雪舟庭は、すっかり観光地になっていて、閑静な旧雪舟庭の面影はすっかり消えてしまっていました。在学中たずねた頃の、閑静なたたずまいに変わって、土産店から聞こえる観光客の声や、車の行き交う音が耳に異常に響くばかりでした。

喧騒の中に身を置きながら、一つ二つと思ひ出されることは、山口の柔らかな身を包み込んでくれる雰囲気です。

私は、中国電力の裏手にある、「堀定雄」さんの家に下宿していました。下宿屋さんでしたから賄い付きで月一〇、〇〇〇円程度だったと記録しています。

七〇〇八人の学生がいました。賄いは、大盛り飯だったことがよく印象に残っていて、食べきれないのに、おばあちゃんがさつさとご飯を装ってくれ、若奥さんが差し入れた菓子や果物をくださったり、家族のようなつき合いの中で楽しく過ごしたものです。そのお婆さんも、随分前にお亡くなりになり、堀さん方も、下宿屋をやめられたと聞きました。大学が吉田に移って四、五年が経っていた頃のことでした。ほんとに優しいご家族でした。一の坂川の蛍を見ながら歩いて、川端

を上っていくと瑠璃光寺がありました。

瑠璃光寺は、私の所属していた「中国研究会」の合宿に利用していたところで、先輩、後輩の交流の場になっていました。座禅を組んだり、読書会をしたり、議論したり。私にとって、考える機会を何度も与えてもらった所のように思っています。当時の友達達の顔が次々に浮かびます。岡崎さん・松木さん・深町君・難波君・広田さん・森田さん・今本さん……たくさんの人たちの親交を得たことは今でも忘れられない思い出です。

大学のことも印象に残っています。一回生の時、国文学部有志が企画して「狂言」を演じたり、同期生全員(当時文学科)で、「壁に題す」を合唱したりして楽しみました。これが先輩達を驚かせたように聞いています。

その時のエピソードにこんな事がありました。

吟詠で、コンダクターみたいで中央前列に出て指揮をするなど考えられないことですが、気持ちを一つにしよう、指揮をした方がよいということになり、指揮をとったことがあります。あの時はほんとうに恥ずかしい思いをしました。しかし、練習する中で、みんなが大学祭を自分のこととして、舞台をつくりあげる情熱があったことはまちがいません。山口での数年間は、私にとって「新しい世界への誘い」の日だったように思います。人との出会い、人との関わり合いです。私の中で、「自分探し」を手伝ってくれた、支えてくれた、そんな思いを今

実感しています。

退官された研究室の先生方のことも心に残るものがありますが、ご健勝にてお過ごしでしょうか。日ごろの非礼をお詫びしつつ筆を置きます。

添田建治郎先生

おめでとうございます

添田建治郎さん(文学部17回卒業)が新村出賞を受賞されました。

新村出賞は昭和56年に国語学者新村出氏を記念して設立され、国語学を専攻する研究者には高く評価されています。平成八年度を受賞者として添田建治郎さんが選考されました。

対象となった論文は、『日本語アクセント史の諸問題』(平成8年5月、武蔵野院刊)です。日本語の祖語(草創期の日本語)のアクセントについて、上昇調●●、下降調●●(二拍語)、●●(一拍語)を出発点として捉えようとされています。また、平安期の京都のアクセントから遡って、実証的に論証されたところが評価されました。なお、授賞式は12月1日に、京都大学の京大会館で行われました。

鴻文会連絡事務所のご案内

一、事務所所在地

山口市大字平井七七三一二
沖田ビル二階二〇二号室

二、事務所名称

山口大学「鴻文会」連絡事務所
(山口大学理学部同窓会連絡事務所 共用)

三、TEL・FAX

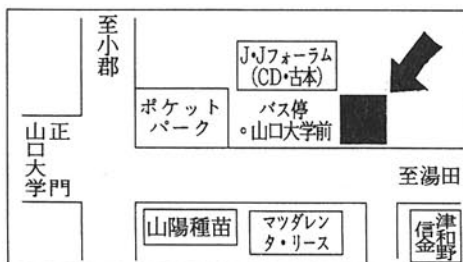
(〇八三九)二八一四五二七

四、通常執務時間

平日 13時〜17時

(但し年末年始を除く)

(緊急の場合は従来通り人文学部へ)



各研究室同窓会紹介

国文科

本年度の文学部国文科同窓会は「前代未聞」でした。八月二十四日山口大学...

社会学系

社会学系の第十九回同窓会総会は、平成八年六月八日(土)の午後三時より、大阪府天王寺区にある「グレル近鉄」で...

研究室便り

人間論コース

現在の人間論コースは、従来の哲学倫理研究室、中国哲学研究室、日本思想史研究室が合体して組織されました。主に...

りました。国次さんもいらっしやう、二時間の歓談のち解散いたしました。七名の参加にとどまりましたが、かえって...

も多い印象を受けました。また、出席者の多くは関西在住の方でしたが、山口県から参加された方が九名、九州の佐賀県から参加された方が一名いらっしやう...

同窓会の会長である藤井英樹さん(昭和三十一年卒)、名誉会長である竹田守恵さん(昭和二十八年卒)が開会の挨拶を...

つぎに中国哲学の領域では、高木智見助教授が春秋戦国時代の儀礼や習俗と諸子百家の思想を、林文孝講師は朱子学や陽明学など宋代以降の政治思想を研究...

あの阪神・淡路大震災は、大阪での開催を、困難なものとなりました。しかし、御自身も被災された寺戸玲二さん(昭和三十三年卒)が中心となられ、関西在住の方とともに、会場の設定、宿泊の準備等...

また日本思想史の領域では、豊沢一助教授が江戸期の儒学・国学、近松・西鶴などを主として近世の思想を、柏木寧子講師は平家物語を中心として中世の倫理思想を研究しています。

この日、小川全夫先生、小谷典子先生、横田尚俊先生、現教官三名を含む、二十八名の出席が実現いたしました。昭和二十八年に卒業された方から、今年、平成八年に卒業されたばかりの方まで、幅広い年代層の中、若い世代の出席が例年より...

新任教官の紹介

山大赴任一周年

橋 本 義 則

(地域歴史文化論・国史学)

昨年十月に赴任し、早一年が過ぎました。それまでは同じ文部省に属する機関とはいえ、外局である文化庁の付属研究機関の一つ奈良国立文化財研究所にいました。同研究所では奉職以来十三年余りにわたり飛鳥藤原宮・平城宮の発掘調査と研究、そしてそこから出土する木簡の解説・研究に当たり、あるいは京畿諸寺の典籍古文書の調査などに従事してきました。また、この間大津宮、難波宮、紫香楽宮、長岡京、平安京の各都城遺跡でも、調査機関の方々と調査指導やシンポジウム・講演会・研究会などを通じて緊密な関係を築いてきました。山口大学ではぜひ奈良国立文化財研究所での研究を通じて得た方法論や、多方面の多数の研究者との容易に得難い繋がりを十分に活用し、自らの研究と学生の教育に厳しく当たりたいと思っています。その実践の一つとして今春には国史研究室の旅行で飛鳥藤原地域の古代遺跡を繞ってきました。また夏には長岡京跡を発掘する京都府向日市に学生を送り込み、実地に発掘調査を経験してもらい、さらに十月には古代史ゼミ旅行として大宰府を中心に鴻臚館や基肆城・朝倉橋広庭宮などを廻っ

てきました。今後も研究室旅行やゼミ旅行で年に二回程度各地(主として畿内以西)の遺跡や博物館などを学生諸君と一緒に回り、見識と親睦を深めたいと思っています。なにかと鴻文会会員の皆様、特に国史学卒業生の方々のご援助・ご協力を願うことがあるかと存じますが、その折にはぜひ快く後輩学生諸君のためにお骨折り頂ければと思います。さて、私自身、大学という環境に入るのは十四年振りです戸惑うことが多くあります。特に自分が送った大学生活の悲惨さ? (教養部時代の文学書の乱読、学部・大学院時代の研究への没頭など)とは裏腹に、山口大学の学生諸君は学生生活を満喫しているようです。ただ満喫しすぎのあまり、専門の勉強では自らの問題を見つけ、答えを得ようとする積極的姿勢に欠けているように思えます。また色々な本を乱読するなどといったことはおろか、本さえ買わずコピーで済ませてしまふ人が殆どなのでしょう。これは何も山口大学に限ったことではないのでしようがせめて自分で勉強したいと思つた専門分野に進めたのであれば、このような姿勢で望んだのでは、全くもってもったいないといしか言いようがありません。自らの意思でやりたいことを選び、やり遂げることができるのは学生時代のいましかないと私は思っています。私はいまはこのような学生の姿勢を少しでも改めようと、時折彼らの自尊心をくすぐるようなことを言っています。挑発しているのですが、残念ながらみなさんクールで、なかなか私の挑発に乗ってきません。いまのところまだ十分な成果は挙がっていない

人文学部教官紹介

学部長(併) 山本和之

○人文社会学科

教授 遠藤正 助教授 上野修 教授 松野正 助教授 高澤一 教授 加藤智 助教授 脇木弘 教授 高橋靖 助教授 藤田弘 教授 加藤智 助教授 高橋靖 教授 加藤智 助教授 高橋靖

○歴史文化

教授 畑地憲 教授 田中憲 教授 森中憲 助教授 橋本憲 教授 小滝野憲 教授 小滝野憲 教授 小滝野憲

○社会情報学

教授 近藤一夫 教授 小川一夫 教授 小川一夫 教授 小川一夫 教授 小川一夫

○言語文化学

教授 仙谷介 教授 仙谷介 教授 仙谷介 教授 仙谷介 教授 仙谷介

(注)※のついた教官は4月に旧教養部から移行された方です。

添田建治郎 教授 岩部浩三 教授 富平美波 教授 太田利隆 教授 下野正嗣 教授 武本啓太 助教授 渡邊啓太 比較言語文化 教授 石井大 教授 石井大 教授 石井大 教授 石井大 教授 石井大

い状況にあります。せめて私を指導教官とした人たちは卒業までになんとかしたいと思っています。

ともかくにも大学教師としての一年を迎え、これからますますパワーアップして学生諸君に對峙？して行きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願ひします。

山口大学に赴任して

柏木寧子
(人間学・講師)

十月に人間学講座日本思想史学担当の講師として赴任しました。これまででもばらばら一般教養科目を担当していたので、文献講読や演習はもちろん、研究室で数人の学生と顔をつきあわせるようにして行う講義も初めての経験です。私塾のような雰囲気は、学生にとっては馴染みなのではないかと、私には新鮮です。

大学に入るときには専攻も定まらず、ただ漠然と東洋のことを学びたいと思っていました。東洋学の伝統の輝かしさに加えて、高校の修学旅行で初めて訪れた京都の、底冷えの中にしんと静まり返った風情がすっかり気に入ったこともあって、京大に入りました。今学生を見てみると、部活動にアルバイトにレジャーに語学学習にと、大変忙しそうですが、ふりかえてみると私は随分暇でした。というよりも、あれこれの用事で時間を埋めるのが勿体なくて、ただ京都で過ごす

ということを存分に味わいたかったというのが真相です。日本は四季の変化が明瞭だといわれますが、京都は中でも格別ではないでしょうか。学生という不安な、しかしまた気楽な身の上で歩き回って見えた景物のあれこれは、見入ったときの興奮ともども、はつきりと思ひ出されま

す。二回生の秋、専攻を決める段になつていちばん学びたかったのは日本の思想でしたが、当時京大にはそのための講座がなく、迷った末仏文に進みました。日本の文献を扱えなくとも八本を読むVこ

とさえ学べば、と考えたのですが、国文でも哲学でもなく仏文を選んだ背景には、当時読み耽っていた高橋たか子さん(京大仏文出身)への憧れもはたらいていたかも知れません。

日本思想を専攻できる大学院に入ったとき、女性に就職口はまづなからう、「石の上にも三十年」くらいの覚悟がなければ、と告げられました。修士課程修了後は細々と楽しみのためだけに続けていこう、と思ったものでしたが、十年後の今日、ことように恵まれた境涯にあるのは夢のようです。もっとも、八本を読めるVようになりたいという当初の志が達成されたかどうかは大いに疑問で、むしろ混乱の度は増しています。「日本」に向き合い、「歴史」に向き合うこと、これはやはり「石の上にも三十年(以上)」を要する難事に違いないと実感するようになりました。ここ山口で、すぐれた自然的文化的環境を楽しみつつ、じっくりと年輪を刻んでいけたら、と思っています。

赴任のご挨拶

武本雅嗣
(国際コミュニケーション・講師)

十月一日付で人文学部専任講師として赴任いたしました。共通教育のフランス語と独仏文化論講座のフランス語学を担当しています。私は兵庫県西宮市の甲子園球場のすぐ近くで生まれ育ち、大

学を出てからはずっと神戸に住んでいました。山口には初めて来たのですが、山

に囲まれて自然の豊かなところがとても気に入っています。

こちらに来る前は、五年間、母校の関西大学や甲南大学などで非常勤講師をしておりました。さらに、夜はII部やNHK文化センターなどで教えていましたので、月曜から金曜まで朝八時前に家を出て夜十時半頃帰宅するというような生活が続いていました。それが山口大学に来て、コマ数は三分の一ほどになり、専門の授業も担当するようになって、ゆとりのある充実した生活に変わりました。専任スタッフとして研究・教育に専念できることを心から喜んでいきます。

私の専門はフランス語学ですが、主として英語との比較研究や日本語との対照研究を通して、機能的・認知的観点からフランス語の分析を行っています。自然言語は非常に多様であるが人間の言語であるかぎり普遍性があるという視点を持つつつ、個別性に注目してフランス語の

様々な特徴について研究しています。また、現代語の研究においても、それが形成されるまでの過程の知識は不可欠なので、通時的にも研究を行っています。

着任してひと月あまりが経ちましたが、山口大学はとても環境がいいなあと感じています。言語学関係の雑誌も充実しているので、時々他学科に行つて利用させてもらっています。ただ、こちらではフランス語学の専門家は私だけで、近くにおなじ研究者がいないのが少し寂しい気がします。

関西にいたときは、毎月大阪で開かれるフランス語学研究会に出っていました。そこには鋭い人達が集まっていたので、私はいへん勉強させてもらったので、こちらに来てからも引き続きその研究会に参加しています。交通費がかさみますが、積極的に研究活動を行っていきたいと思っ

ています。同時に、自己の研鑽を積んで、教育にも力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



人文学部表通り

平成7年度事業報告

1. 第18回役員会(6月10日) 2. 「鴻文会会報第15号」発行 3. 同窓会事務所開設
4. 支部結成準備 5. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会 4. その他

平成7年度決算

収入総額 1,906,898 円 支出総額 1,799,230 円 残額(次年度繰越金) 107,668 円

収入の部

科目	当初予算額	決算額	比較増減	摘要
繰越金	424,437 円	424,437 円	0 円	
会費収入	1,100,000	1,024,500	△ 75,500	5,000円×204.9人
名簿収入	180,000	3,000	△177,000	2人分
雑収入	50,000	13,275	△ 36,725	瓶代(275円)、懇親会参加料(13,000円)
繰り入れ金	0	321,686	321,686	定期預金から300,000円 利子21,686円
寄付金	0	120,000	120,000	山崎種三氏より
合計	1,754,437	1,906,898	152,461	

支出の部

科目	当初予算額	決算額	比較増減	摘要
会議費	100,000 円	62,367 円	△ 37,633 円	役員会、その他
印刷費	220,000	234,840	14,840	会報印刷費(3,900部)、封筒
郵送費	300,000	287,040	△ 12,960	会報郵送料
事務費	360,000	55,629	△304,371	会報発送宛名書きアルバイト、文具代
寄付金費	100,000	100,000	0	日中学術交流奨励会
事務所運営費	0	656,300	656,300	家賃32,500円(8月より)・人件費・事務所費
事務所開設費	0	380,463	380,463	敷金、備品費など
予備費	674,437	22,591	△651,846	電報代
合計	1,754,437	1,799,230	44,793	

特別会計

科目	当初予算額	7年度決算額	比較増減	摘要
積立金	5,155,401 円	4,855,401 円	△300,000 円	定期貯金から300,000円一般会計に繰り入れる
積立新規分	0	0	0	
利子収入	50,000	39,377	△ 10,623	
合計	5,205,401	4,894,778	△310,623	

平成8年6月22日、監査の結果過誤なく的確に経理されていることを確認します。

監事 米屋廣志 印
芳西靖幸 印

山口点描

大学を訪れる方々が均しくおっしゃることは、校内の緑の豊かさです。キャンパスが美しく映える季節は、春の新緑と秋の紅葉です。特に十一月の初旬には、太陽の光が木の葉に反映して、紅に輝く一瞬があります。人文文学部の建物も、こうした木々に取り囲まれるようになりました。周囲の歩道では、木立のトンネルになっているところもあります。掲載する写真では、紅葉の豊かさを表現することが出来ません。残念です。

人文文学部のこうした光景は、ここ数年の間に見られるようになったものです。人文文学部が文理学部を改組して、現在の建物に移転したのは昭和五十三年のことでした。すでに十八年も経っています。山口大学教養部がここ吉田キャンパスに移転してきた(昭和四十二年)、二十九年が経過しました。木々が幹を太らせ、枝がしっかり張ってきた歳月の確かさを、こうした景色の中に改めて思い起こすことが出来ます。

移転してきた当初、学生食堂の周囲には、「まむしに注意」という手製の立て札がたててありました。歩道は整備されていなく、雨が降れば、どろんこにぬかれました。至る所が工事中で、建設現場のただ中に本部、農学部、教養講義棟などが建っているばかりでした。生活に最小限の施設があっただけだったのでしょう。当時のキャンパスに、緑や憩いを感じることはありませんでした。

平成8年度事業計画

1. 第19回役員会(6月22日)
2. 「鴻文会会報第16号」発行
3. 山口支部結成準備
4. 平成9年度第5回総会の準備
5. 名簿の作成について
6. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会
7. その他

平成8年度予算(案)

収入の部

科目	8年度予算額	7年度予算額	比較増減	摘要
繰越金	107,668 円	424,437 円	△316,769 円	
会費収入	1,100,000	1,100,000	0	5,000円×220人分 平成8年度入学者218人
名簿収入	15,000	180,000	△165,000	1,500円×10部
繰入金	350,000	0	350,000	
雑収入	20,000	50,000	△30,000	預金利子
合計	1,592,668	1,754,437	△161,769	

支出の部

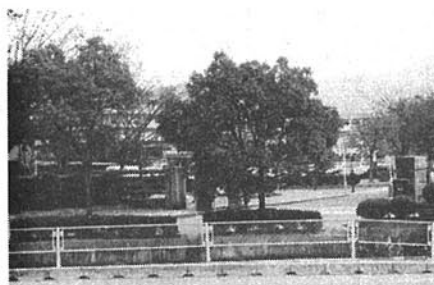
科目	8年度予算額	7年度予算額	比較増減	摘要
会議費	70,000 円	100,000 円	△30,000 円	役員会、その他
印刷費	250,000	220,000	30,000	会報印刷費(4,000部)
郵送費	300,000	300,000	0	葉書購入、会報郵送料
事務所運営費	774,000	0	774,000	家賃390,000、人件費264,000、事務所費120,000
事務費	50,000	360,000	△310,000	会報発送手伝い、消耗品費
寄付金費	100,000	100,000	0	日中学術交流奨励会
慶弔費	30,000	0	30,000	
予備費	18,668	674,437	△655,769	
積立費	0	0	0	
合計	1,592,668	1,754,437	△161,769	

特別会計

科目	8年度予算額	7年度予算額	比較増減	摘要
積立金	4,544,778 円	5,155,401 円	△610,623 円	定額預金の内から350,000円一般会計に繰り入れ
積立金・新規	0	0		
利子収入	50,000	50,000	0	
合計	4,594,778	5,205,401	△610,623	



人文学部西側



正門

来年は、鴻文会の総会が開催されます。夏に予定されているので、紅葉の美しさをお見せすることは出来ません。ですが、夏の緑の力強さも魅力的です。蝉時雨が、皆さんを迎えてくれることと存じます。山口大学創立五十周年(昭和二十四年五月三十一日創立)も間近になります。総会には是非おいで下さり、しっかり成長したキャンパスを一度ご覧下さい。キャンパスの木々共々、皆さんをお待ちしています。

平成七年度
人文学部卒業生・
大学院修了生進路状況

人文学科

建設業
竹中工務店、大和ハウス工業、山口組、鹿島建設

製造業
山陽コカ・コーラボトリング、泰平印刷、地域経済センター、鐘淵化学、ノエビア徳山、三友、サンウエーブ工業、三島光産

卸・小売業
成和産業、鈴与商事、レイメイ、極東ファデー、国際経営、ファーストリテイリング、清山ベネトン山口、日産サニール、生協ひろしま、えじまや、みどり、寿屋、ヤオハンジャパン

金融・保険業
安田海上火災保険、日本生命、住友生命、命広島

証券・不動産業
オリオン取引、東洋証券、山三商会

運輸・通信業
日本通運

教員
学法大多和学園、広島県新庄学園、長崎県教員、福岡県教員

サービス業(医療保険)
倉敷医療組合

新聞・テレビ・出版業
日本セレモニ、ベルシステム24、ユ

ナイテッドウエイ、クリエイト、総合オリコミ、昂、大栄教育システム、北九州ゼロックス、北九州予備校、吉備システム

国家公務員

広島県商工労働部職業安定課、熊本大学、山口大学埋蔵文化財センター

地方公務員

下関市役所、宇部市役所、岡山県庁、受雲市役所、田川市立美術館、諫早市役所、飯塚市役所、灘崎町教育委員会

その他

キューハウ

語学文学科

建設業
小野田ケミコ、積水ハウス、創建ホーム、大林、東洋技術

製造業
柏村印刷、ノエビア徳山、イサハヤ電子、天馬

卸・小売業
ダイエーコンビニエンスシステムイズミ、三貴、マミー、ジャスコ、やまと、染寿、フジ、主婦の店スーパーチェーン

金融・保険業
安田信託、住友生命広島、住友生命福岡、日本生命

証券・不動産業
東洋証券、ニッシン、しんわ、不動産情報

運輸・通信業
NTT、中国セルラー

教員
山口県教員、長崎県教員、愛知県教員、

入学年度別学生数

学 科 (専攻)	性別	8	7	6	5	4	3	2	元	計	
人 文 学 部	人文社会学科	男	46	61	50	45	2	1			205
		女	67	50	61	61					239
	計	113	111	111	106	2	1			444	
言語文化学科	男	28	33	35	22		1			109	
	女	77	76	71	79	1				304	
計		105	99	106	101	1	1			413	
人 文 学 科	男					5	6	2	2	15	
	女					3	1			4	
計					8	7	2	2		19	
語学文学科	男					3	1	1		5	
	女					6			1	7	
計					9	1	1	1	1	12	
合 計	男	74	84	85	67	10	9	3	2	334	
	女	144	126	132	140	10	1		1	554	
	計	218	210	217	207	20	10	3	3	888	
人 文 科 学 研 究 科	地域文化専攻	男	4	2	3	-	-	-	-	-	9
		女	3	6		-	-	-	-	-	9
	計	7	8	3	-	-	-	-	-	18	
	言語文化専攻	男	3	2	1	-	-	-	-	-	6
		女	3	1	2	-	-	-	-	-	6
	計	6	3	3	-	-	-	-	-	12	
合 計	男	7	4	4	-	-	-	-	-	15	
	女	6	7	2	-	-	-	-	-	15	
計		13	11	6	-	-	-	-	-	30	

島根県教員、鹿児島県教員、兵庫県教員、明治学園高校、宮崎県立養護学校

その他
小倉興産

サービス業(医療保険)
益田医師会病院

新聞・テレビ・出版業
中央出版

広告・観光・サービス業
三宅商事、日本セレモニ、福山産業

情報、林業情報、明倫学園、アサント、家庭学習、EXインターナショナル、成通、大成社、JA山口中央、平湯コーポレーション

地方公務員
山口市役所、山口県警察、山口県庁、新南陽市役所、福岡県労働部職業安定課、直方市役所、東予市役所、防府市

大学院人文学部研究科

地域文化専攻
(株)向学社 学部進学教室
日本生命保険相互会社(日本リープ)
山口大学人文学部助手

言語文化専攻
山口県教員(中学校) 桃山中学校
九州大学 大学院(比較社会文化研究科)

山口大学 人文学部 公開講演・講座

第九回公開講演

テーマ 情報化・

国際化時代の言語研究

—情報化社会はことばを—

どのように変えて行くのか—

演題 「情報化時代とことば」

講師 人文学部 教授 靄岡昭夫

講演概要

ここ数年のコンピュータの発達は、目を見張るばかりです。安い、早い、容量が大きいといった本体の性能もさることながら、多くの機器、ソフトウェアなどが出回っています。情報化社会では、今まで以上にことばをコンピュータで処理することになります。機械にかけるために、ことばはどのようなようになっていくのでしょうか。また、このような時代のことばを守ることとはどういうことなのか、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

演題 「国際化時代の大言語と弱小言語」

—インターネット時代—

日本語は生き残れるのか—

講師 人文学部 講師 乾秀行

講演概要

インターネット時代を迎え、英語が世界の共通語となって情報世界を制圧するため、英語力の差が情報格差を広

げると言われています。現在世界に約6千の言語がありますが、そのうち21世紀末まで生き残れるのは10%にすぎないという報告があります。まさに国際化時代は大言語が弱小言語を淘汰する時代だとも言えます。仮に我々の母語である日本語が地球上から消えてなくなるとしたら、皆さんはどう思われるでしょうか。大言語の情報洪水の中で弱小言語はどうやって生き続けられるのでしょうか。そこで今回は、国際化時代に弱小言語の話し手が大言語とどのようにつきあっていけばよいのかについて、皆さんと一緒に考えてみようと思います。

平成八年度 山口大学人文学部公開講座

テーマ 「死について」

期間 平成8年10月12日～11月16日の

毎週土曜日

6回シリーズ

(毎回 午後1時30分～3時)

日程・内容・担当講師

10月12日(第1回)

「日本近世の死生観」

豊澤 一 助教授

江戸時代の儒学や武士道などにおける「死生観」を概観します。そして、

一つの説得力ある見方を提示した柳田

国男の『先祖の話』に及ぶ予定です。

10月19日(第2回)

「古代中国の死生観」

高木智見 助教授

死者が戦場に赴き、外交活動の主体となる。そのような観念が一般的であった古代社会における人々の生活や思想の実態を探る。

10月26日(第3回)

「中国近世儒教の死生観」

林 文孝 講師

宋代以降の儒教思想家たちにとって、死はその世界把握の不可避の問題でありかつ限界であった。代表的な議論を追いつつ死の意味づけにつき考える。

11月2日(第4回)

「死は考えられない」という

崇高な事実について」

上野 修 助教授

そもそも「死」は考えることができ

ないものかもしれません。とすれば、

この不可能性じたい、どう受けとめ

ばよいのか。これが問題です。

11月9日(第5回)

「プラトンと死後の存在」

脇篠靖弘 講師

プラトンは「魂の不死」を説いたが、

肉体を欠いた死後の魂はそもそも「私

の」魂と言えるのか。「純粹な」魂が

個性を保存する可能性を検討する。

11月16日(第6回)

「死によって失われるもの」

加藤和哉 講師

死によって失われるものは、もちろ

ん生である。しかし、私たちは実際そ

こで何を失うのか。死を考察すること

によって、生の姿を浮き彫りにする。

同窓会総会

第五回開催のお知らせ

平成九年八月二十三日(土)に同窓会

総会第五回の開催が予定されています。

この四年間、事務所の開設や名簿管理の

電算化をすすめてきました。やっと同窓

会らしい体制が整いつつあるところです。

これにともなって、運営経費も必要にな

り、会費の値上げなどについてもご相談

しなければなりません。

文学部人文学部、人文学部の卒業生の

みなさん。それぞれ研究室あるいは同期

の方々とはがいに誘いあってご参加下さ

い。旧交を温める会にしたいと存じます。

同窓会名簿の発行

同窓会総会の時期にあわせて、新しい

同窓会名簿を発行いたします。前号から

有料にさせていただきますが、次号も

ほぼ同様の形になると存じます。春にご

住所の確認などの通信をお届けいたしま

すが、この折申し込みと払い込みの用紙

を同封する予定です。ご協力下さいます

ようお願いいたします。

小河啓祐さんが副知事に就任されました

小河啓祐副知事就任祝賀会ご案内

このたび、私も山口大学文理学部文学科の同窓、小河啓祐氏(八期・国文学)が山口県副知事に就任されました。この慶事に際し、学窓を同じくする者一同として満腔の祝意を表し、あわせて同門相乗、久方の交歓を図るべく、左記のとおり祝賀会を開催することいたしました。どうか、新春の気満つ、私どものアルトハイデルベルク山口の街にご参集されますよう、ご案内申し上げます。

平成八年二月吉日

- NHK文化センター山口支社 社長 重中十士朗(一期・国文学)
- 学校法人鴻城義塾 理事長 小田 稔亮(二期・国文学)
- 東亜大学 教授 大塚 博久(四期・中国哲学)
- 山口県企画振興部 部次長 弥源治 毅(八期・社会学)

記

日時 平成九年一月一七日(金曜)午後六時三〇分 開会

会場 山口市湯田温泉三丁目一ー一 翠山荘「カトレアの間に」(2F)

会費 五〇代以上:一万円、四〇代:八千円、三〇代以下・女性:五千円

当日、会場人口で受け付けます。

(お願い)

時間的な関係からすべての同窓生には、この誌面にてお知らせ、ご案内しますので、ご出席希望の方は、ご一報下さいますようお願い申し上げます。

(発起人一同)

* 編集後記 *

今年、一九九六年も暮れようとしています。卒業生のみなさん、お元気のことと存じます。

この数年間、山口大学における一年の変化がとて大きくなっています。今年度から教養部が廃止され、教養部教官は学部に分属されました。これに伴って、共通教育という新しい名称のもとに教養教育が再編されました。また、事務処理の電算化が導入されようとしています。学生の指導なども、電算化によって変わろうとしています。更に、大学教員の任期制(期間を限定した雇用制度)の導入も検討されています。大学という器は変わらぬとしても、この中に盛られる大学教育の内容は大きく変化することも予想されます。時代の要請という言葉があります。山口大学がこれまで蓄積してきた知的伝統をどの様に発展させるかが課題となっています。卒業生のみなさんの知恵や力をお貸し下さい。

会報に掲載しましたように、添田建治郎さん(文理学部第17回卒業)が、新村出賞を受賞されました。日本語のアクセントを実証的に研究されてこられた成果が高く評価されました。添田さんの身近にいる我々も、大いに刺激を受けた業績でした。会員のみなさんの中には、著書の出版や、あるいは賞の受賞などのニュースをお持ちのことと存じます。会員の相互の発憤にもなりますので、こうした情

報を連絡事務所の方にご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

一九九七年は、総会を開催する年になります。キャンパスの木々は幹を太らせ、四季を豊かに表現しています。鴻文会が山口大学四十周年を記念して寄贈した楠木二本も、大きく成長しています。文理学部時代の建物は、時代の経過とともに貫禄を増しています。かつては建物がむき出しでしたが、会報の中の写真で紹介しているように、今では周囲の木々に調和をしています。八月二十三日(土曜日)に予定されている機会には、是非おこし下さい。

総会の開催にあわせて、同窓会名簿の発行を準備しています。住所の欄が空白になっておられる会員も目立ちます。住所などが不明になっておられる会員の転居先をご存じの方は、ご連絡下さい。会員名簿の整理は、同窓会のもっとも大切な仕事だと考えています。ご協力下さるようお願いいたします。

一九九七年が間もなくやってきます。会員の皆様のご多幸を祈念いたします。お元気で活躍下さい。お会いできるのを楽しみにしています。

会費未納の方はなにとぞお納め下さいませようお願い致します。

終身会費 五、〇〇〇円
郵便振替口座
〇一五〇〇一四一五九〇二一
加入者名 鴻文会